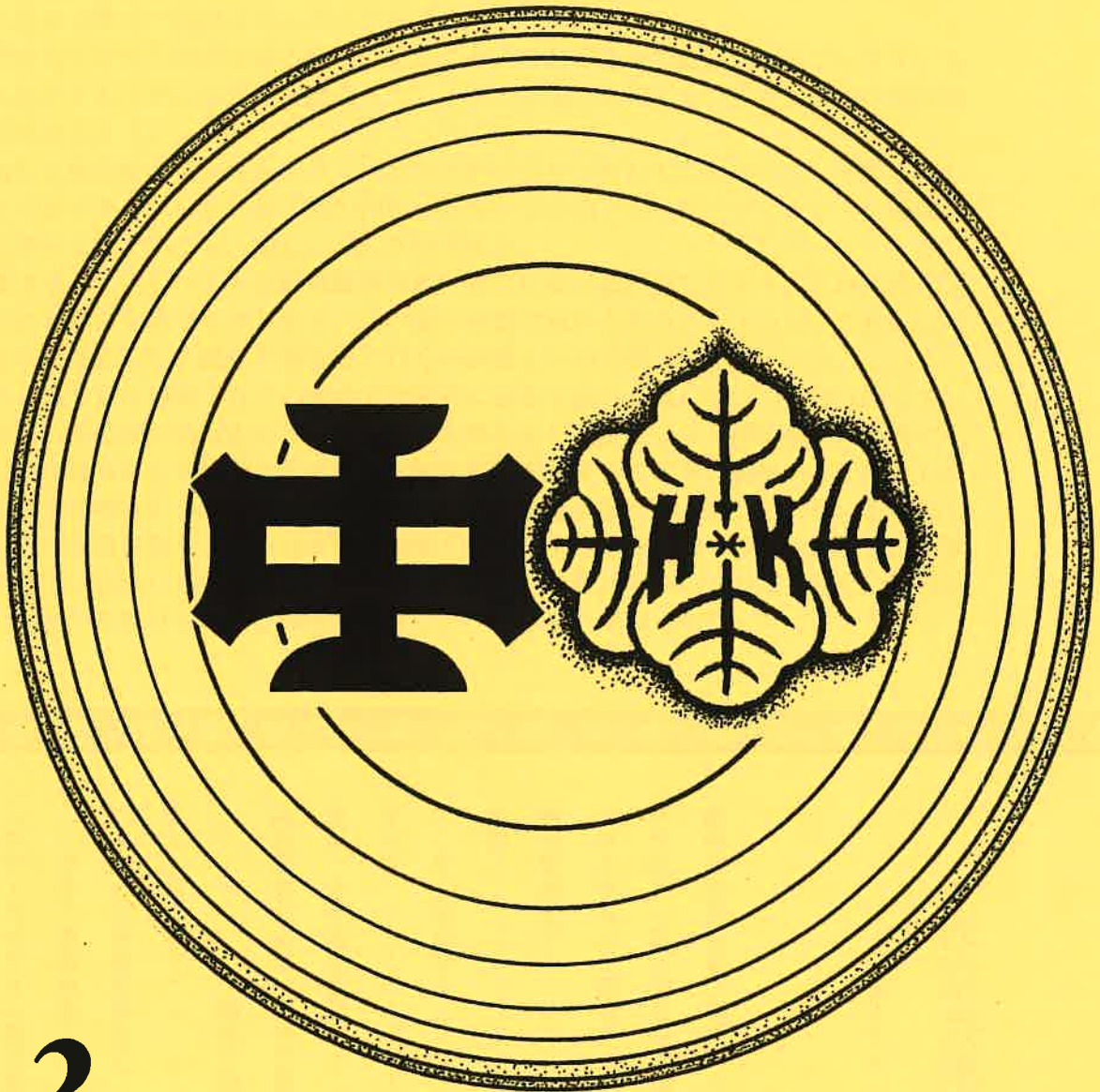


2005年(H17)

# 在京芸陽



3

在京芸陽観音同窓会

(広島二中観音芸陽会改め)

# 新時代を迎えた...在京芸陽会

今や昔、昭和56年に産声をあげた在京芸陽会が19年の歳月を闊した平成17年、正に新しい時代を迎えました。旗揚げ当時は二中卒業生だけを糾合した集いだったのが、その主導権を後身である観音高校卒業生の手譲ったのであります。

10月29日、品川プリンスホテル新館4F・中国料理【品川大飯店】で催された第19回二中観音芸陽会総会は、永年日本青年館を定席とした集いの趣を一変させたものでした。出席構成において二中組より観音組が逆転したのが3年前、今回もその比率が増大したのは予想どおりでしたが、先輩への敬意を払って用意された主テーブルについて二中組は、毎年舞台を飾っていた二中、観音の両校章レリーフをあしらった看板もないということもあってか、些かの戸惑いと寂しさを覚えたこと否定し得ませんでした。

初めて会則を制定したことによって、会の性格はより明確となり、観音卒業生による今後の当番会期まで展望するに至ったのです。

同窓会を二中から後身である観音に繋ぐこと、これは広島で既に実現しています。在京会においてもこれは永年の宿願だった、これが実現したのです。自然、必然の時の流れと言えましょう。

急増した観音組の初出席者には「同期の人がいなかったにもかかわらず、先輩も親しくしてくれて楽しかった。年1回の同窓会もなかなか良いものだナア」といった感想も本誌に寄せられています。嬉しいじゃないですか。

【敬法正事愛人】二中のよき伝統は観音高校に着実に受け継がれています。これは昨年同校を訪れた私の実感でもあります。二中組は複雑な思いもありましょうが、これからは弟妹たちの成長ぶりを温かく見守って行くのが宜しいのではないのでしょうか。

この本誌3号は当初10月の総会で出席者に頒布するべく既に60%を作り終えていましたが、総会後の発行ということに方針転換しました。従って一部原稿には時宜にそぐわない表現もあるやに存じますが、大幅な修正を講ずることなく編集を仕上げました。

なお、会の呼称については、従前の【広島二中観音芸陽会】という名で集いを招集し、会則などの討議を経た上で、【在京芸陽観音同窓会】という名称が承認された形ですから、過渡的に微妙な違いがあるかも知れませんが、略称としての『在京芸陽会』も本誌としては使用を続けることご理解ください。 [本誌・松本(中22)]

## 「在京芸陽」3

平成十七年(二〇〇五)十二月発行

(巻・八十年の年輪を刻む二中／観音)

新時代を迎える／目次	1
グラビア「第19回在京芸陽会グラフ」	2
プログラム／出席者リスト／役員	4
総会を終えて／山木、大成	5
会則	6
ここまで来たか	8
ゴルフ	14
惜別・寺本同窓会長	15
【同窓会だより】二中22期	16
” 観音20期	17
超人「梶山季之」	18
県人会／排球部石碑など	20
二中頁・恩師仇名	21
二中アーカイヴズ「勤労働員令」	22
後記	裏表紙裏





↑品川プリンスホテル 品川大飯店⇒  
(ビデオより)



# 第19回 在京芸陽会総会 グラフ

'05 平成17年10月29日



↑司会・大成正樹 (観13)  
(ビデオより)



←会則案を説明する山木和雄 (観3)



⇒事業報告・奥窪事務局長 (中21)



⇒プログラムに割り込んで喋る  
松本 正 (中22)



↑上2枚・会則説明を聞く各テーブル

↓乾杯！ 右は音頭の前口上・竹林信夫 (中1)



↑中華料理を楽しむ。  
(ビデオより)

右は別室の観音20期の一部⇒







↑ 会費集金…お役目ご苦労様 (ビデオより)



↑ 「観音への道」  
・ 蒔田直昊 (観3)



↑ 「被爆60年、広島の小中学生に伝える」  
・ 森政忠雄 (観3)



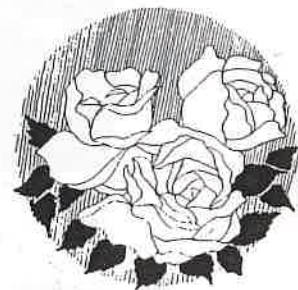
↑ サア！観音校歌だ！  
・ 山木和雄 (観3)  
でも観音組は大人数だから  
写真にはまともらず…



↑ 食事ときは別にされた観音20期は主会場へ戻って  
おとなしくスピーチを聞いています。



↑ 音大の先生も♪「ああ厳島…」 (ビデオより)



美声を披露した  
メゾソプラノ  
山木奈保子さん

このグラフの写真は大成正樹氏の  
作品を主に松本のビデオ、さら  
に山田京子さん (観20) の作  
品から構成したものです。



↑ 恒例・両校へのエール！・大成正樹 (観13)  
(ビデオより)



↑ もはや二中組は少数派、おかげでまとまって♪「彩雲なびく…」

⇒ 閉会挨拶・貞広篤良 (観4)



[役員]



会長 西亀 達夫 (中9)



副会長 奥窪 五郎 (中21)



副会長 山木 和雄 (観3)



理事 松本 正 (中22)



理事 瀧山 昇 (観9)



理事 大成 正樹 (観13)



理事 松本 直和 (観20)

第19回 在京広島二中観音芸陽会 プログラム

2005年10月29日

- 開会 幹事代表3名 司会 大成 正樹 (観13)
- 【第1部】
- ・事業報告 奥窪 五郎 (中21)
  - ・会則案討議 山木 和雄 (観3)
  - ・会長による乾杯 (会食)
- 【第2部】
- ・「被爆60年、広島の小中学生に伝える」 森政 忠雄 (観3)
  - ・「観音への道」 蒔田 尚昊 (観3)
- 【第3部】
- ・歌 「ラ・セレナータ」(トスティ)
  - 「ロンドンデリー・エアー」(アイルランド民謡)
  - 山木 奈保子 (メゾソプラノ)
  - ・校歌斉唱 二中 (彩雲なびく)
  - 観音 (あゝ 厳島)
  - ・閉会挨拶 貞広 篤良 (観4)

出席者リスト

《二中》		《観音》	
1期	竹林 信夫	1期	国広 寛子
9期	西亀 達夫(欠)	2期	井町 孝司
12期	伊藤 得平	3期	渡部 剛
	坂下 雅章		平塚 功
13期	植花 武		森政 忠雄
15期	田中 正己(欠)		蒔田 尚昊
	倉本 馨		堂元 一男
	中尾 博邦		松本 千明
	岡本 文夫		永井 賢三
17期	胡子 英幸		山木 和雄
18期	三宅 紳童		矢沢 朝乃
	内村 佐武郎		横田 美保子
	伊藤 智之		竹本 すみ子
	岡島 知一(欠)		山田 桂子
	田所 靖男(欠)		大谷 末子
	八木 稔		山本 豊子
21期	奥窪 五郎	4期	山本 剛也
	藤川 浩司		貞広 篤良
22期	上杉 襄一		上田 年暢
	池内 正躬(欠)		安藤 幸代
	亀井 賢伍	6期	桜井 弘子
	末岡 恒美		今坂 謙
	松本 正		三瀬 和雄
23期	佐伯 栄三		田中 千鶴子
		7期	福間 年勝
		8期	宇都宮 浩三
		9期	瀧山 昇
			渡部 亮一
			長松 宏
			山野 真純
			丹下 容子
			百武 妙子
			板子 泉
			藤田 洋子
			西平 美貴
		13期	大成 正樹
			杉野 信子
		16期	今田 浩子
		17期	吉永 綾子
		19期	永田 洋水
		20期	松本 直和
			升田 和一
			松原 邦雄
			志和木 薫
			斉藤 登
			山田 京子
			猪原 陽子
			串山 絹枝
			升野 和江
			石田 由子
			竹森 裕子
			藤原 美岐子
			黒田 美和子
			安岡 千寿子
			倉成 由美子
			山本 由美子
			小豆原 博子
		22期	田中 光晴
		23期	蒔村 三枝子
		*他県より出席	
		3期	松本 千明
		"	永井 賢三



# 第19回在京芸陽観音同窓会を終えて

観音3回 山木 和雄

去る10月29日、在京芸陽観音同窓会、初の観音高校の当番幹事としてのお世話を無事終え、安堵しております。

大過なく終了と云いたいところですが、冷汗の連続でした。その第一は、参加人数が予測を大幅に上回ったことでした。広い会場に替えるよう申し入れましたが、当日が大安の土曜日とあって変更不能となり、食事のみ一部の方に別室で摂っていただく事となりました。嬉しい誤算でありましたが、これからも参加者が増えるよう期待して、当番期の方々には準備に当たっていただきたいと思います。

当日の同窓会の模様は、別記、大成氏（観音13回）の華麗なる会記をご覧ください。

当日ご出席の皆様には、在京芸陽観音同窓会会則を満場一致でご承認いただき、早速、会員PRの為の当初維持会費（3,000円）を全員納入いただきました。誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

最後に、18年の長きに亘り幹事役を一手に引き受け、ご尽力下さいました奥窪様（二中21回）に感謝申し上げます。今後我々観音生一同は、そのご苦勞に報いると共に、同窓会の永続発展に向け精一杯の努力を重ねて参りたいと思います。

## 一中観音芸陽会 開催

観音十三回卒

大成 正樹

（総会司会担当）

ときは平成十七年十月二十九日午前十一時、

ところは、東京はJR品川駅前・品川プリンス四階品川飯店。

定刻、恒例の創学以来鬼籍に入られた先生同窓生の方の御霊に対する黙祷から始まった。数えて第十九回目の東京での二中と観音の同窓会である。名づけて「在京二中観音芸陽会」

スタートは、これは在京同窓会の自慢であり誇りでもある二中第一回卒業の竹林信夫先輩が今年も参加されたので乾杯の発声をお願いした。御年九十四才。声も大きく顔色もよく益々お元気である。

会の中身は飲み食い歓談は当然のこと、

第一部、会議、新規約、会費、新役員を決めた。

第二部では森政忠雄先輩（観音三回卒）の「被爆六十年・広島の小學生に伝える」、蒔田尚昊先輩（観音三回卒）の「観音への道」と題しての講演をうかがった。

第三部で、山木奈保子さん（玉川大学芸術学部講師）のイタリア歌曲とアイルランド民謡の二曲を聴かせてもらった。

今年は何年と異なってアカデミックな同窓会となった。実は昨年まで会の企画運営は全て二中の先輩方をお願いしていたが今年から観音のOBが担当する様になった為でもある。観音三回の山木和雄先輩を中心に全て観音で準備し進化した。

どの同窓会でもそうであろうが、十年も二十年もそれ以上離れた先輩後輩の人々も一堂に会すると、初めて会った人でも何故か懐かしくなって来るものである。やはり皆二中、観音の卒業生なのである。いわゆる同窓生なのだ。これぞ二中魂であり観音スピリットであり、それを共有しているのである。

大いに飲み、大いに語り合った後、それぞれのOBによる二中校歌、観音校歌を熱唱し散会した。又来年第二十回も元気で再会を約しながら……

二中観音万歳！

# 在京芸陽観音同窓会会則

- 第1条 本会は在京芸陽観音同窓会と称する。
- 第2条 本会は芸陽観音同窓会規約に基づく芸陽観音同窓会の東京支部とする。
- 第3条 本会は芸陽観音同窓会の会員として、主として関東地区在住者でもって構成する。
- 第4条 母校の現職員及び旧職員は客員とする。
- 第5条 本会は会員相互の親睦福祉をはかり、本部と連携を保ちながら、会の発展向上に寄与することを目的とする。
- 第6条 本会はその目的を達成する為、次の活動を行う。
- (1) 会員相互の親睦福祉の増進
  - (2) 会誌の発行等
  - (3) その他、会の目的に必要な事業
- 第7条 本会は、その目的達成の為、次の役員及び幹事を置く。
- (1) 会長 1名 役員会で推挙し総会で承認する。
  - (2) 副会長 若干名 同上
  - (3) 理事 若干名 同上
  - (4) 幹事 卒業各期毎に1ないし2名を原則とし会長が委嘱する。
  - (5) 監事 特に定めず。前期当番幹事がその任にあたる。
- 第8条 役員及び幹事の任務は次の通りとする。
- (1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
  - (2) 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は、その職務を代行する。
  - (3) 理事は、本会の運営に関する諸般の協議を行い、会計・広報・庶務等各種事業の企画推進にあたる。
  - (4) 幹事は各期を代表し、必要事項を各々の会員に連絡し徹底を計る。

第9条 役員の任期は2ヵ年とし、補欠役員の任期は残任期間とする。但し再任を妨げない。

第10条 総会は毎年1回これを開き、

- (1) 会員相互の親睦
- (2) 会務・会計の報告
- (3) 規約の変更
- (4) その他必要事項の決議

等を行う。

但し会長が必要と認める時は、臨時に会を召集することができる。

第11条 役員会は必要に応じこれを開き、本会運営に関する協議ならびに事業の推進にあたる。役員会の他に、会長が必要と認めたときは、幹事を加えた拡大委員会を招集することができる。

第12条 会員は氏名変更、住所移転、身上の異動等ある場合には、本会に報告し相互の親睦増進に資するものとする。

第13条 本会運営に関する経費は次のものを以ってあてる。

- (1) 初年度維持会費 年額 3,000 円
- (2) 年維持費 (次年度より) 年額 1,000 円
- (3) 寄付金
- (4) 臨時収入 (定例の集いの剰余金) 及び雑収入 (利子その他)

第14条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

第15条 本会の運営を円滑に進める為、事務局を置く。

第16条 この会則は2005年10月29日から施行する。





# いっままで来たか！

〓在京会これまでの足跡を辿る〓

在京芸陽会幹事 松本 正（二中22期卒）

〔平成十七年九月記〕

在京芸陽会、世話役がようやく観音組の手に移った  
：ここまで来たか： 随分かかったもんだ： 一人  
の感慨を覚えます。

その昔、1期卒業をはじめとした二中先輩達には  
「同窓会をやるのはいいが、二中だけにしてくれよ」  
という声があったのは事実であります。その頃の先輩  
には観音が後輩であるという認識を持ってという方が無  
理だった。母校校地が無理やり移されたことが大きな  
しこりとなり「俺は二中で観音は知らん」と強く反発  
する人もいたぐらいですから。その心情は十分理解し  
つつ、それでも筆者なんか二中後期の者は「先輩の気  
持ちも解りますが、それでは会の将来はありませんと。  
いずれば観音につながないと：」と言葉を返したもので  
あります。つまりは「観音へ繋ぐ」ことは一種の宿  
願みたいなものだった。それが長い年月を経て実現し  
たと言つてよろしいか。

## 萌芽は三十年近くの昔から

年次別同期の集まりをヨコの会とするなら、経年を  
通じてのそれはタテの会といえましょう。東京でもタ  
テの集いは過去あるにはあったのです。それにゴルフ  
が大きな役目を果たしたいきさつは本誌1号に西亀会

長が書いてくださっています。一方、デイリースポ  
ツ紙の協賛広告がキッカケにもなって同窓会活動に熱  
心そのものだった奥窪五郎氏（二中21期）の呼び掛け  
で新橋の酒蔵「酔心」に第4期以下23期まで約三十名  
が会合したのが昭和五十六年の十二月四日。これが具  
体的な萌芽の一つだったといえるでしょう。

## 旗揚げ総会は大成功

関東在住だけでも二中同窓全部に声をかけようと  
いう企画はその後約六年間もくすぶり続け、奥窪氏が中



懐旧談が長すぎて  
ビール温まる



ゼッケンを胸に  
各期が記念写真

心の事務局となって世話人会を度々続け、9回卒の谷  
口清氏（9期）が早大閥の縁が深いことからメンバー  
となつている大手町の会員制「永楽倶楽部」を会場と  
して初の関東二中・芸陽会が開催されたのでした。  
時に昭和六十二年十一月二十六日、一九八六年です  
から今から十九年前のことです。案内発送三四〇、回答  
二八〇。蓋を開けてみると1期から23期まで予想以上  
の百二十名が参加という大成功を収める、という会の  
歴史に特筆するイベントとなったのでした。

下は大和銀行が占める重厚なビルの7階。明治の元  
勲大隈重信公ゆかりの倶楽部で会員以外は滅多に入れ  
ない大ホールは天井も高く、鹿鳴館もかくやとばかり  
古式豊かな豪華な造りです。開会の挨拶を述べた大野  
慶治氏（5期）、続いて企画の経緯を説明した永井要  
氏（4期）、乾杯の音頭の前の懐旧談が長すぎて皆手  
に持つビールが温まった高橋伝之助氏（1期）、万歳  
三唱の音頭は水泳二中の功労者原剛中氏（6期）、そ  
して閉会の辞で「私は二中に六年間おりました：」と  
拍手を呼んだ前出・谷口清氏。こういった重鎮の方々  
は何れもこの十九年の間に籍を彼岸に移されました。  
自然の摂理とは申せ残念でなりません。

この場では私が作ったゼッケンを胸に各期が適当に寄  
り集まって記念写真を撮りました。帰り際に誰かが  
「アリガトウ」と叫んだのに「苦勞した甲斐があつ  
たと涙が出るようだった」と最初から最後まで仕切つ  
た奥窪事務局長が述べたものです。今年の在京芸陽  
会が「第19回」と銘打つのは昭和六十二年のこの最初  
の集いから通算してということを理解してください。

翌昭和六十三年、何となくきこちなかった初回と比べ2回目ではこうも違うものか、三宅紳童氏(18期)が恩師升田竜一先生(故)のご家族を招き、梶山三郎氏(12期)がアコーデオンで懐メロを奏でるなど雰囲気はグツとくだけた。今まで恒例となっている奥窪司会の福引きはこの時がはじまりです。閉会の辞を予定していた大吞滋氏(23期)の海外出張からの帰国が遅れてピンチヒッターの浜岡平一氏(25期)が「将来につきまます」と力強く宣言、これはヒョツとしたら観音までつなげるか、と初めて夢を持たせてくれたのでした。

## 慰霊祭ビデオは失敗

第3回は昭和から平成へ暦を改めた元年十月二十七日、元三菱の落合一郎氏(16期)の手配で準備できたモニターで私がその年八月六日の広島二中原爆慰霊祭を撮ったビデオを会場で放映したが、正直言ってこれは失敗だった。観音の後輩達が碑の前で「彩雲なびく」を歌う様子を撮らなかつたのですが、初っぱなからアルコールが入って画面を見るところかスピーカーの音が大きすぎる!とクレームが出る始末。それでも奥窪司会が「冒頭のビデオのように観音高が二中の後を継いでいるので今後は一緒にやって行きたいが」と問いかけると一斉に賛同の拍手。閉会の辞でも高松敏夫氏(25期)が「われわれが殿ではなく観音につながるよう努力したい」としめくくったのでした。

## 奇麗なお姐さん達が応援

永楽倶楽部のあるビルが改築することになり、岡本文夫氏(15期)の肝いりで会場を神宮外苑そばの日本青年館に移したのが平成二年九月二十一日の第4回。奥窪事務局長自らお気に入り田辺鶴女の女流獅子舞と

いうアトラクションは新趣向。会長に推されていた高橋伝之助氏が奥窪氏から「長話ほしないでくれ」と釘をさされて渋い表情だったが、奇麗なお姐さんたちを引き連れて駆けつけてくれた新宿のクラブママとカメラに収まって満更でもなさそうだった。前回に続くこのホステス応援は渡辺慶三氏(20期)の顔によるもので、この好況も後に歴史の彼方に遠ざかることになり。二中校章を中央にあしらって舞台上に飾った「広島二中芸陽会」大看板(3枚繋ぎ)はこれからのち毎年、筆者の手で年号を差し替えて使うことになりました。

## NHKテレビが取材に来る

平成三年九月二十八日の第5回は夜道を心配する大先輩ご家族の為もあって、夜ではなく初めて昼、正午からの集いにしたのですが、とんでもない闖入者が現れたのです。

丁度、対ヤクルト戦で神宮球場へ乗り込んだセ・リーグ優勝目前のカープに帯同して来たNHK広島テレビが、何と近くの青年館に郷土出身OBたちの集まりがあると嗅ぎつけて予告もなく取材に来たのでした。



広島2中(観音高校)の同窓会とテロップ  
奥窪司会の「カープ頑張れ」に全員エイエイオー

TVカメラとマイクを向けられた各々がカープへの思い入れを口々に語り、ステージに上がった奥窪事務局長の「カープ頑張れエイエイオー」に全員ゴブシをあげて唱和したもんです。この様子は当日夕、広島ローカルニュースでオンエアされる予定だったが、折から台風19号の被害ニュースで吹っ飛び、それでも一週間後の十月六日(日)朝「浩二赤ヘル初Vへ」の45分特番に挿入放映されたのでした。「広島2中(現観音高校)在京同窓会」とテロップ。はからずも大同団結五周年を記念する珍しい趣向となったという次第。

## 70周年は広島から豪華ゲスト

再び夕べに戻した平成四年九月二十五日の第6回は、色々な意味で記念すべき集いとなりました。母校創立七〇周年とあって広島から大物ゲストを迎えたのです。芸陽観音同窓会今中龍雄会長(二中7期)、永年幹事長的に実務を引き受け今度も七〇周年事業準備委員も務める寺本和彦氏(二中22期)後の同窓会長)、それに観音高校現役の福川秀俊先生(観音20期)の三氏。東京の高橋、広島の中中、両会長のガッチリした握手が実現したのでした。ここで初めて二中と観音両校旗(略式)が飾られ、これも以後の恒例となったのです。今中会長からは「スフではない、原綿のように混じり気なく二中を継いでいる観音を弟、妹のように可愛がって欲しい」観音教職の経歴もある寺本幹事長からも「流れをつぐ観音を仲間に入れるのは当然」福川先生も「この席に観音の同期がいなかったのは残念。是非仲間に入れてやって下さい」三人異口同音に訴えたのでした。(こっちだつて「ワカッテルヨ」)今回も新宿歌舞伎町から美女が応援に駆けつけ、アマチュアマジシャン協会長の川崎利秋氏(二中17期)の妙技に大喝采、福引きでは一等の広島産松茸が何と今中会長に当たり「広島に帰る人にやあげん」と取り



母校創立70周年記念総会で  
 ← 左から 今中同窓会長、長谷川正也氏、  
 脇本繁喜氏。



↓ 全員記念写真はこれが今のところ最初  
 で最後。中央に今中会長ら本部ゲスト、  
 高橋会長らを囲む。



上げて大笑いなど大変盛り上がった。約百名の全員集合写真をプロに頼んで撮影したのも今のところこれが最初で最後となっています。なお後日の広島における七〇周年記念式典には首脳上京への答礼の意味もあり、在京会を代表して奥窪事務局長が気持ちばかりの祝いを携えて出席したのです。

毎回出席と回答しながら当日無断欠席のあまりの多さに業を煮やし、今回から振込による会費前払い制をとったのが吉と出るか凶とでるか心配されたが結局七十余名の出席を得て一安心したのが平成五年九月の第

7回、中には前金の振込済み忘れて当日の受付にまいた払おうとする方もかなりいて笑いをさそっていました。まずは前年の七〇周年記念の如くに賑やかとは参らず、名門相模のメンバーとしてゴルフ部会に貢献しながら広島本部総会から宮島での同期会にも出席されるぐらい同窓会活動に理解深かった脇本繁喜氏（二中期）や第1回で挨拶された大野慶治氏、原剛中氏ら重鎮の訃報が伝えられて、逝く先輩を悼む場にもなったのです。

第8回となります平成六年九月の集いはとりたてての変わった趣向も無く、時期が重なったアジア大会の影響が大盛会とは行かなかったものの「ユックリ話が出来た」の負け惜しみやら、「ご馳走が余って勿体なかった」というような声もあったとか。カクシヤクという言葉はこの人の為にあるような高橋会長の挨拶は相変わらずお達者。わが国自動車業界に大きな足跡を残し長嶋巨人監督とも親交の厚い長谷川正也氏（二中期）が乾杯なさったが、この人、後に奥様を亡くされてから姿を見せられなくなった。辛いですネ。

## 県人会でミニ芸陽会現象

恒例一月に開かれる東京広島県人会総会の一卓に同窓が思い思いに集まって一緒にカメラに納まるなどミニ芸陽会的な様子を呈しはじめたのはこの頃からです。

この県人会総会におけるミニ芸陽会現象はこの翌平成七年ホテルニューオータニでも認められました。オウムなる狂った集団が世間を騒がせたのはこの年です。九月の第9回在京芸陽会、人数、趣向ともに特筆する変化はないが、今回は十年目10回という節目になることから、これを機会に二中一観音とつながる大きな組織にしたいと奥窪事務局長が本部発行の「藝陽」臨時

号で呼びかけたのはこの頃でした。

観音同窓生の関東地区での集まりはないのか？幹事たちが八方手を尽くして色々尋ねてもこれに未だ好い答えは得られなかったのです。

この年十一月の本部総会で芸陽観音同窓会今中会長が勇退、後任の第三代会長に永年今中会長を補佐してきた寺本和彦氏（二中期）が就任しました。

## 本部寺本新会長が十回祝い

翌平成八年は節目といえる第10回を祝う形で寺本新会長としては観音高校校長、本部事務局スタッフ達と帯同して上京出席を希望していたのですが、たまたま翌二十二日（日）が観音高校の体育祭とあって、やむなく一人で出席、それも会合を中座して新幹線でトンボ返りという慌ただしさでした。それでも東京の高橋（1期）広島の本部（22期）両会長は先輩後輩二十二年もの年次を超えてガッチリ握手。この時の報告は本部発行「藝陽」新体制発足記念号（8/11/9）の6頁「同窓会・OBだより」に（在京芸陽会十周年「観音も参加を」と寺本同窓会長）の見出しで筆者撮影写真とともに詳しく掲載されました。これは大勢の方にも読まれたのではないかと感じています。

## 東京でも芸陽・観音の初きずな

広島で実現している二中・観音の連携は在京会でも出来ないだろうか…この永年の夢が叶えられそうなの、その曙光とでも言えそうな一枚の写真を撮ることが出来たのは芸陽会ではなく東京広島県人会総会平成九年一月十日のこと。これに出席している広島県議会議長檜山俊宏氏は観音14期、この機会逃すべからずと筆者はこのところミニ芸陽会の如く顔を見せられて同窓を糾合して同議長を囲む記念写真を撮ることに成功したのです。（左頁上段）



↓ 県人会でのミニ芸陽会記念写真。数、顔ぶれともこの時(平成10年)がピークで、これから後は混雑が過ぎて、集まるのが困難となった。

中央一番後ろの背の高い人は藤田県知事、左その前は藤田明・前日本水連会長(故)、その右は檜山県会議長。左上白いのは風船に結ばれた卓案内の「広島市」の札。



↑ 檜山県会議長(観14=中央)を囲み、その右・奥窪、右から3人目・寺田。

十一人の顔の中には奥窪事務局長宅に程近い世田谷新聞社に勤務する寺田泰民氏(観音40期)という活きのよい若手も初めて加わってくれました。この写真は筆者(二中22期)が制作し続けている同期会報16号に「東京でも芸陽・観音の絆」と題して掲載しました。

## ♪ああ広島 テープで初披露

在京芸陽会に純粹の観音OBが出席したのはこの平成九年の第11回、前出・寺田泰民氏です。まるで彼を歓迎するように、♪ああ広島 裳すそひきよの観音校歌を初めてこの席で流すことが出来ました。筆者が広島本部事務局と電話中、待ちのオルゴールの代わりにフルバンドをバックの歌声が聞こえる。「今の観音校歌でしよう?」案の定。「すぐそのテープを送って下さい!」事務局の金藤さん早速の手配で翌日現場の青年館でそれを受取り、「今着いたばかりの観音校歌、広島毎秋の芸陽観音同窓会では二中、観音の順で歌われるのですが、ここでは順序逆に聞いて下さい」と披露出来たのです。この時は聞くだけで誰も歌うには至りませんでした。でも、2期の先輩から「観音の歌詞が欲しい」と頼まれたり、観音を仲間にするにはどうしたらよいか?と具体的に色々な意見が出たのもこのテープのお陰かも知れません。

式次第横に「歓迎・観音高校同窓」のビラを垂らした前寺田氏は初の観音卒業生代表として挨拶し、本部発行「藝陽」にも「先輩たちが二中校歌を誦じて歌う様に感動した」とその感想を寄稿してくれたものです。竹内昌士氏(二中23期)が「二中の校歌を作詞した山本良雄(二中1期)は私の義父です」と名乗り出て満場のどよめきを誘ったのも今や懐かしい。

## 観音同窓続々とコンタクト

奥窪事務局長懸命の「観音同窓探し」がようやく実

を結び始めました。人脈を辿って続々とコンタクトがとれ、寺田氏の他、山本和雄(観3)、渡部剛(3)、貞廣篤良(4)、平田博義(6)、小出隆(7)、瀧山昇(9)、大成正樹(13)、松本直和(20)、田中光晴(22)、等々といった諸氏が、それぞれ在京の同期仲間と声をかけるといって嬉しい現象が始まったのです。この方達も追って世話人幹事として務めることとなります。

広島同窓会本部の専従金藤さんが、観音17期満田肇さん、同40期の上田純也さんなどから事務局あてに「在京支部を知りたい」と手紙が来ていると知らせてくれたのも大きな援護射撃となりました。

## 「二中観音芸陽会」と改名

奥窪氏と筆者が前出、山木氏、大成氏、寺田氏、さらに上田氏ら連絡のついた観音組と新宿「広島ゆめてらす」で初めて具体的なミーティングを持ったのは平成十年四月二十五日のことです。そして念願であった観音卒業生の参加が本格的になるのを機に「二中芸陽会」から「広島二中観音芸陽会」略称・在京芸陽会」と呼び名を改めたのはこの年の秋十月二日、第12回の総会からでした。実は筆者は丁度この日、川崎被爆者一泊ツアーのビデオ制作を請け負っていたので充足以来初めてこの集いに出られなかったのです。ステージ看板に二中の校章と並べて観音のそれ(このレリーフは二中に比べ複雑で手間がかかった)も新たに作って加えるなど事前の準備などは尽力しながら本番への欠席は苦渋の選択だった。従ってこの報告は依頼した奥窪事務局長の「藝陽」紙面に譲らざるを得ない。その報告では二中と観音の両校歌が歌われた、とありますが欠席した筆者には「ソウデス」としか言えません。

# 両校歌の歌声揃って流れる

♪彩雲なびく…の二中校歌と、♪ああ敵島…の観音校歌、この二つの歌声が揃って流れ、筆者自身が二中のみならず観音のそれにも大声でガナッたのは平成十一年十月十五日の第13回総会が初めてのことでした。前出本部事務局専従の金藤朋子さんから新バージョンとして送って貰った観音高プラスバンド演奏のテープが大いに役立った。観音組は六十余名の参加者のうち三分の一を占める大勢力に発展、そしてそのみんなが今後もっともっと仲間を増やすことを約束してくれたのです。



♪ああ敵島 裳裾ひき… 観音同窓に混じって筆者も大声で歌いました(中央)。

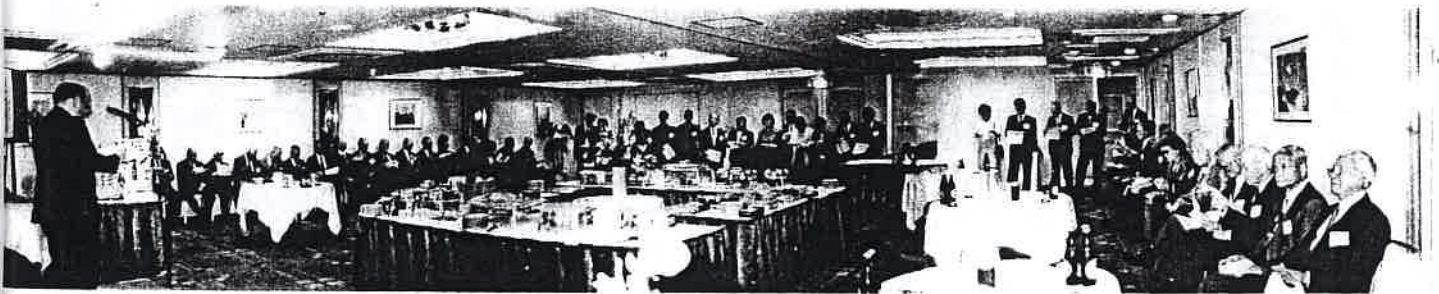
就中、観音代表として挨拶した山木和雄氏(3期)は世話人会にも皆勤のみならず、この席に美しい夫人同伴という頼もしい存在。その奥さん曰く「いつの間にか観音卒が増えて二中卒が遠慮がちになるんじゃない



奥窪五郎・事務局長



西亀達夫・会長



↑ 第14回。司会者席から左、中、右、と3枚撮ったものをパソコンでつないだもの。たしかに椅子は全員にわたらず、立っている人には辛い思いをさせました。

ですか」私「そうなって当然、思うところですよ」と大笑い。《観音組も増えて前途洋々》これは筆者が本部の「藝陽」そして同期会報双方に寄稿した報告の見出しです。

## 西亀新会長誕生

二中第1期卒高橋伝之助会長が亡くなられた後を受けて西亀達夫氏(二中9期)が二中、観音全幹事の推薦を受けて新会長に選出されたのは平成十二年第14回総会。美しい後輩達に同伴のご婦人方を含めて六十七名、結構な盛会となりました。同期だけでも十名以上という大デレゲーションの観音9期を代表して挨拶した瀧山昇氏「還暦の身では立ちん坊はくたびれた」筆者などからみれば若いんですがねエ。元来この場は立食で椅子はサービス品だから、歳上に譲り若い人には辛抱して、としか言いようがない。

♪ああ敵島 裳裾ひき…の観音校歌ははからずもアカペラという仕儀となり、山木和雄幹事(観3)の「アインツヴァイドライ」で結構盛り上がったものです。ここでも観音パワー全開。西亀氏は芸陽ゴルフ会の会長も兼任され今日まで続いています。

## 在京二中観音ガツチリ

司会者という仕事は集いを盛り上げも、盛り下げもするものです。観音13期の大成正樹幹事がタキシードに蝶ネクタイよろしく盛り上げたのが翌平成十三年の総会。通算15回目を数えます。軽妙なその司会ぶりは好評でこの後も続くことになりました。美女後輩のヘルプを得て川崎マジックもご満悦。

この集いの報告は筆者が『在京二中観音ガツチリ』と本部発行「藝陽」に寄稿、「在京のこの活動を発足



させて十五年、宿願の二中観音同窓の合同が漸く確立できたという実感を改めて持てた夕べであった。この実現を期待して下さっていた故今中龍雄同窓会前会長に見せたかった」と結んだのであります。

## 会報「在京芸陽」はじめる

二中22期の筆者がひとりで二十二年間作り続けてきた同期会報を22号をもって完結打ち上げとさせた後にとりかかったのが、この会報「在京芸陽」です。二期の同期会報にも芸陽会の様子は「庇をかす母屋」の如く適宜載せていましたが主体ではなかったこと言うまでありません。それがこれからは関東在住の二中、観音全同窓を主体に意識したものです。情報は本部署務局に提供することもあり、またその逆も有るわけですから一部内容で「藝陽」と重複すること有り得ないことではありません。

敢えて創刊号という言葉を使わなかった一昨・平成十五年十月十日発行の第1号に第16回・平成十四年在京芸陽会グラフとして写真報告を2頁にわたって掲載しました。そして「発足以来16年を1頁に凝縮」と第1回から16回まで報告をダイジェストして載せたのです。ところがこれが小さな文字の横組で、とてもじゃないが読み難い。筆者自身が読む気になれないぐらいの代物です。こんなものは誰も読まなかったらどう読まれなかつたら意味もない……この悔いが尾を引いていたのですから、会の運営が従来の二中主導から観音組の手に移るといふ今回の画期的な機会に、漸く「ここまで来たか……」との一種の感慨をもって今までの経過を出来るだけ詳しく、且つ読まれ易いように説明したつもりですが、クドかったですか。矢張り……ですか。

## 日本青年館との別れに感慨

平成二年以来十五年の永きにわたって毎年利用してきた日本青年館との付き合いを絶つに奥窪事務局長は一種の感慨と一抹の寂寥感を味わっている筈です。いやそれ以前に三十近くもの永い間、東京での同窓会は全て自分の手で……と自負してきた身には、自らの加齢、体力も考えての若手への移管であります。心中複雑なものもありましょう。事実好き嫌いは別として、余人をもって代え難し、この人なかりせば在京同窓会ここまでの活動は無かつたと言つて過言ではありませんまい。引き継ぐ観音卒の世話人方もこの事を忘れないよう願いたいものです。

\*\*\*\*\*

## 何故「芸陽」というのか

ついでながらこの場をかり、会に使われている【芸陽】という言葉について申し添えたいのです。

部外者からは「芸能界に関係があるのか？」なんてトンチンカンな質問も出ることがあるそうですが、「芸」は安芸の国の「芸」、「陽」は山陽地方の「陽」から来ている非常に古い由緒あるこの地方の愛称と聞いております。間違っていたら教えてください。

昭和二十三年、学制改革によって旧制中学校は新制高等学校にされるに当たり各校はそれぞれ独自の名称を選んだのです。1期の在校生が作詞した校歌に既にこの言葉が取り入れてあり、戦前の校友會誌に「藝陽」といふ題をつけていた位この愛称に親しんでいた広島県立広島第二中学校は「芸陽高等学校」と改まったのでした。そしてその年、二中生のままで卒業する者もいれば芸陽高校3年に進学するものもいました。

しかしこの芸陽高校という名称は僅か一年の寿命でした。翌二十四年には観音高等学校としてまた新しく生まれ変わったのです。従つて芸陽高校の卒業生は最初で最後のものとなりました。ならば、この学校の変遷を厳密に言えば、二中、芸陽、そして観音ということじゃないか？ 仰言るとおり、本部文書では二中、芸陽、観音と忠実に三つの校章を並べてるものもあります。本部同窓会のHPには二中と観音に挟まれて芸陽高の写真資料も載せられています。しかし昭和四十七年の母校創立五十周年記念式典の舞台上では既に日の丸を中心に、左右に二中と観音の校章しかありません。芸陽の校章は蔑ろにされてもその名前は立派に「芸陽観音同窓会」と残っているのです。在京芸陽会でも二中、観音と二本の校旗(略式)しか飾りません。芸陽高は校旗まで作るには至らなかつた筈。

芸陽高校の卒業生に不満はないのか？ 実はいく申す筆者が二中22期でその芸陽高校卒業者の一人、不満は有りませんのです。他校と組んで「高校映画連盟」を作るなど高校生活動をした私でさえ……。その校章は応募した同期の平池嘉啓氏の手になるものと記録されていますが、彼には申しわけないが、私、愛着はありません。私が精魂を傾けた卒業アルバムも二中としては作ったが芸陽高としては作らなかつた。一年足らずでという時間の短さでは止むを得ないことでしょう。

この芸陽高校の存在は二中先輩たちにも中々理解が難しいようで、よく質問されるものですから私独自の解釈を述べてみました。また若い観音高卒の諸兄諸姉の「何故、二中にも観音にも無い【芸陽】という言葉が同窓会に使われているのか？」という疑問に答えたいつもりですが、如何なものでしょう。



夢下正



\*在京ゴルフ会の活動報告は既に同窓生全員に頒布される本部発行「藝陽」に掲載しましたが、発行時期に間に合わなかった部分を補完する目的もあり、本誌がこの活動の本家であることから、相当部分重複を承知で掲載します。(本誌/松本)

## 「在京芸陽観音ゴルフ会」2005年



今年も超難コースと自他共に認める【きみさらずゴルフリンクス】、埼玉の名門【武蔵カントリー・豊岡コース】、一見易しそうでスコアのまとまり難い【東都飯能カントリー】そして千葉の日本庭園と讃えられる加藤俊輔氏設計の【久能カントリー】の4つのゴルフコースを賞味しました。若手の新加入4名、うち2名が優勝!と、ヤングパワー目立つ大会でしたが、来年度はベテラン勢の巻き返しが期待されます。

来年も4月15日(土)、【八千代カントリー】(パブリックからコース一新、老若男女が楽しめる千葉のメンバーコース)を皮切りに、5月下旬【武蔵カントリー・笹井コース】、秋には【千葉カントリー野田コース】を含む2ヶ所と計4コースめぐりとしています。未だ全く反応のない観音5期から17期の皆さんの一声をお待ちしています。今年度4大会の各成績と優勝者の皆様のコメントは次のとおりです。



### ◎4月21日【きみさらずコース】

- |     |             |
|-----|-------------|
| 1位  | 森山 康三 (観20) |
| 2位  | 井町 孝司 (観2)  |
| 3位  | 斉藤 登 (観20)  |
| バツ加 | 森山 康三 97    |

森山『昨年東北地方から23年ぶりに東京に戻り、同窓会報でゴルフ会の存在を知り、直ちに申し込みました。そして初参加の優勝となりました。諸先輩の元気な姿を目の当りにし「私も将来はそうなりたいもの」と皆勤賞を目指しています。「良いゴルファーに出会いたければ、皆様も是非このコンペに参加してみませんか?!」』



### ◎9月17日【東都飯能】

- |     |             |
|-----|-------------|
| 1位  | 貞広 篤良 (観4)  |
| 2位  | 松本 直和 (観20) |
| 3位  | 佐々木義隆 (中25) |
| バツ加 | 松本 直和 87    |

貞広『この日の目標は、100を切ること。前半3ホール連続パーと上々の出だし。ゴルフはメンタルなスポーツ。技術不足のタラレバゴルファー程崩れ易い。後半は挫けそうになりながらも、パートナーに励まされ何とか100を割り、無事優勝することが出来ました。幹事さんに感謝しつつ皆様のご参加をお待ちしています。』



### ◎5月25日【武蔵CC豊岡】

- |     |             |
|-----|-------------|
| 1位  | 森田 精一 (中19) |
| 2位  | 井町 孝司 (観2)  |
| 3位  | 森山 康三 (観20) |
| バツ加 | 森山 康三 88    |

森田『二中19期の森田です。倉本先輩のご紹介で名門中の名門コース「武蔵カントリー豊岡コース」で芸陽会コンペが行われ、生涯優勝なんかあり得ないと思って居りましたのに優勝させて頂きました。これを機会に健康に気をつけながらゴルフに精進させて頂きます。先輩、後輩、ありがとう。』



### ◎10月6日【久能カントリー】

- |     |             |
|-----|-------------|
| 1位  | 内富 幸司 (観18) |
| 2位  | 山木 和雄 (観3)  |
| 3位  | 石丸 恵照 (中22) |
| バツ加 | 内富 幸司 ?     |

内富『此程、千葉の名門・久能カントリークラブで優勝できたことは、いかにも私らしいと言えます。苦悩の末に栄冠を勝ち取ることができました。これからも人生の励みとして頑張っていきたいと思えます。』

以上です。では又、来年も元気な姿でお会いしましょう。

世話役 **山木 和雄**  
TEL/FAX 03-3323-2108



「5/25武蔵CC豊岡コース」



「9/17 東都飯能CC」

# 惜別

前・芸陽観音同窓会長

## 故 寺本和彦氏

(二中22期)

寺本同窓会長が亡くなってもうじき一年を迎える。早いものだ。彼の顔は本部発行「藝陽」でご存知の筈だが、ここでは平成四年に母校創立七〇周年を祝って当時の今中同窓会長、観音の福川先生(観20)と共に在京会に出席してくれた際の写真を見て頂く。年次を超える百名の同窓を前に「あのワルの寺本が出たんなら(広大を)と中谷テボさんに招かれて教職の道(観音高など)に入って以来公職(県の要職など)の傍ら三十三年にわたって同窓会の世話をさせて頂いている。流れを継ぐ観音を仲間に入れてやって欲しい」と挨拶した。これから三年後、今中氏勇退の後を継ぎ芸陽観音同窓会三代目の会長に就任した。

この知らせを聞いた二中時代の恩師・高取先生曰く「あの世話好きが、行くところまで行きましたか…」

全く、同窓会活動のために生まれて来たのか、と思わせるような男だった。学を卒業社会へ出てしばらくの年月は仕事に追われ、同窓会なんぞ頭にならないのが普通ではあるまいか? それが彼の場合は違った。二中22期で結成した同期会「二二会」の発足当初からの要である幹事長



として同窓の世話に尽力し、その歴史は五十有余年に及んだのである。卒業全同期を纏める同窓会長という役は生涯においてその活動の仕上げみたいなのだったと言えようか。リンパ節腫瘍、肺癌、さらに口底腫瘍手術も受けた身で一昨年の創立八十周年記念式典を乗り切った。昨年四月の二二会総会、司会の彼の声が聞くに痛々しい。「司会誰か替わってやれよ」私の注文に広島島の役員達「やめさせたらあいつの命を縮めるようなもんよ」その翌日私は初めて観音高校に同窓会事務局を訪ねた。約束はしていなかったのにそこに待ち構えていたのが彼だった。二中の伝統を形として残す石碑を校内に建てる計画を熱心に説明してくれた。その石碑が建立された報告は本誌2号に紹介した。

この念願が実現したのに安堵したか、暮の十二月八日、我々世代にとって忘れえない大詔奉戴日(米英に対する宣戦の詔勅が発せられた)に彼は七十三歳の充実した生涯を閉じたのである。観音高校からタクシーを呼んで帰る後ろ姿をこれが見納めになるのでは? その惧れが当たったのだった。

葬儀に参列できなかった悔いを引きずった私が安芸区畑賀の寺本家を訪れ、焼香する事ができたのは今年の五月十四日。「戦時中、動員の防空壕でイタズラをし合った仲ですから奥さんより付き合いは永いですよ」と笑いながら遺影を挟んで奥さん、娘さんをカメラに納めた。(右卜)

筆者が東京支部でありながら二年間作り続けた同期会報では広島本部の寺本情報が毎号大きな骨子を占めて来た。平安祭典における盛大な葬儀、数多の甲電で読まれたのは某代議士からのと他に一通だけだったと聞く。それは私からのだった。



「余人をもって替え難し」これは我々広島二中同期会の要である幹事長として、かつ全同窓の世話にその生涯を燃焼し尽くした君の為にある言葉だった。

君と一緒に二十二年間作り続けてきた「二二会報」を昨年私が完結させた時、君は「会まで終わったような感じがする」と嘆いた。これが命を縮めたのか。会報を続けられた君もいずれそちらへ行く。そこで同期の集いを続けよう。

広島二中二二会 東京支部

常任幹事 松本 正



# 同期会だより

二二二会東京二二二会、本誌前号の発行直後で間に合わなかった昨年度と本年度、2回分の同期会報告です。昨年は「敢えて「オノポリサン」を体験してみよう」と、はとバス。今年は江戸の伝統の味に名所の藤見をからめたという趣向。



## はとバス・六本木ヒルズ 十六年度二二二会報告 当番幹事 倉井 敏夫

平成十六年の二二二会東京支部の同窓会は三三三(散々)な目に遭いました。予定していた前日になって明日大型台風が東京を直撃する可能性大との報道です。怪我でもすれば大変だと常任幹事と相談の上、急遽順延することに。予定していた「はとバス」と夕食のキャンセルは気持ちよく了承してくれましたが、15人余りの参加予定者に中止を周知するのに天手古舞、一人でも連絡がつかない場合は、集合地に私が出向いて事情を説明するより他はないのか? など思い乍ら夕方遅くまでかかって全員に順延を通知することが出来たのです。翌週全く同じコースでの開催を決めて全員にその旨通達、10月28日13時、予定通り《はとバス・六本木ヒルズと新名所めぐり》で出発進行(写右下)、品川近辺の新しい開発地、どこからどこ迄が橋なのかよく分からない巨大な「レインボーブリッジ」を渡って、昔ゴミの島と呼ばれた所に立ち並んだ最新のビル街を見て六本木迄戻り、「六本木ヒルズ」の展望台から眺めた『東京は広い』もう一つ行けないと実感した次第。(写左上)



バスを降りて夜の部のみ参加の人が待っている「新橋・酔心」で台流し、年次総会の一部らしき話を含め、昔話に花を咲かせながら楽しい一時を過ごしました。ドタキャンの為来れなかった人が2名、逆に一週間遅れの為来れた人1名、結局4組の夫妻を含めて18名の参加となりました。来年度の幹事を佐々木、大本両氏に引き受けて戴き、今回都合がつかなかった諸兄を含め、次回での再会を楽しみにしています。

毎年二二二会の会友として顔を見せて下さる千葉ヨシコさんが、今年七月『きこの雲の下で』と云う貴重な被爆体験談を自費出版されました。英訳付のユニークな本でいつもニコニコしていらっしやる千葉さんにこんな厳しい過去があったのかと驚かされました。末筆乍らお祝いとお礼を込めて一筆書かせていただきました。

以上

## 亀戸・あさり鍋と藤祭り 十七年度二二二会報告 当番幹事 佐々木寿昭

どういふ企画にするか、相棒大本幹事と鳩首。近くて美味しく安くて楽しいものはないもんかと、探して見付けたのが、花も団子もの欲張り計画。

「亀戸天神藤祭り」と「亀戸大根あさり鍋」である。いずれも「お江戸の」を冠する名所名物なので「お江戸コース」とした。

### 一、亀戸天神藤祭り

天神さんといえば梅で、湯島天神が有名だが、こちらは藤である。広重の「名所江戸百景」にも描かれた都内随一の藤棚と称する。五年前に移植され、まだ以前ほど大きな房にはならないが、今年本格的に咲く見込みという。南門前には、創業依頼百九十年「くず餅」と筋の船橋屋がある。

### 二、亀戸大根あさり鍋

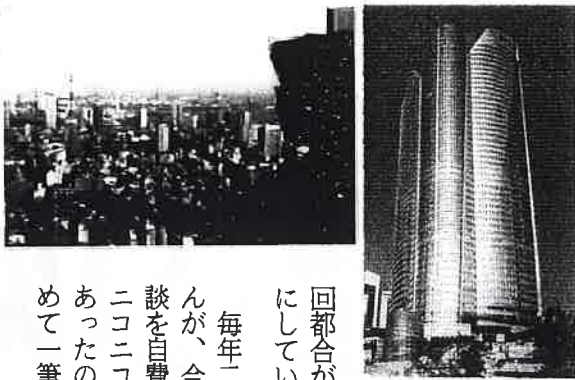
鬼平でおなじみ「笹や」のお熊婆さんが餓ッあんに食わしたのが、大根と剥き身の煮汁をぶっかけた丼。江戸時代のアサリは、とにかく安かったたので、お熊婆さんの剥き身は、アサリであろうといわれている。これに似たものではないかと思われるものを食わせるのが、亀戸割烹「升本」、江戸の伝統の味を守っているという。

### 三、同窓会

過去十四年間で一番晴天の多い日花盛りになるであろう日を睨んで、四月二十七日に開催を決定。

当日晴天、会場升本に集合したのは、会員会友十四名、同伴者四名の計十八名。二階の二間を抜いた大広間で、大根・アサリの煮汁を麦菜飯にぶっかけて、飲み、かつ食い、かつ喋る。割烹だけにサービスもよい。校歌と弥栄三唱でお開きの後は、升本名物「福わけ餅」と山田ご夫妻お心遣いの「信玄餅」の土産袋を手に、それぞれで五分先の天神さんへと向かい、自然解散となった次第。

(幹事 佐々木)



亀戸天神にて



升本大広間にて



話題も、  
夢も果てしなく…



同期会だより

## 観音20回在京同期会報告

日時：10月29日（土）15:00～17:00  
場所：品川アトレ4階「ルビーカフェ」  
参加者：18名

山田 (旧姓徳永) 京子 (観音20期)  
(写真最前列中央)



10月29日、「第19回在京芸陽&観音同窓会」が品川プリンスホテル新館「品川大飯店」で盛会のうちに閉会。観音校歌を歌い高揚した気分のまま、20期一同（18名）は大先輩方の熱気でムンムンの会場を後に、そのままJR品川駅に隣接の、品川アトレ4階のワインバー「ルビーカフェ」へ。予定を30分過ぎて、午後3時に再集合！

最初、松本直和氏の発声でスタートした20期の同期会も、今年で4年目を迎え、既にクラスの枠を超えての交流会になっており、美味しいワインの酔いも手伝い、在校当時へと一気に戻り、賑やかに歓談、痛飲しました！

「ゴルフ談義」「旅行談義」「ネットレ談義」「子供達の結婚談義」「旨いもの談義」と話題は尽きることなく、予定の2時間がアツという間に過ぎ、全員揃っての集合写真撮影の後、散会となりました！既に気持ちは5年後に飛び、5年前にB組一行が50歳になった記念に「ハワイ旅行」をしたという話から、60歳の還暦には広島組や全国に散っている同期にも広く呼び掛けて、「広島組の宮島辺りの旅館に宿泊して、ドンチャン騒ぎをしよう」とか「面白いらしいから、在京組だけででも、アフリカ旅行にしよう」だとか、いろいろな企画が持ち上がっています！実際、仕事に縛られ自由の利かない男性陣を尻目に、比較的時間に恵まれる女性陣たちは、日常的にも交流が盛んで個々にプランニングして食事会や映画鑑賞に始まり、小旅行や散策、そして海外旅行も既に実行されているようです。いずれにせよ、先輩諸氏がここまで育てて来られた「在京芸陽&観音」の輪（和）を絶やすこと無く、後輩に繋ぎ、これからも益々発展させていきたいものです。

尚、次回の20期同期会は12月17日（土）18:30～21:30「響、銀座7丁目店」で「忘年会」を予定しております。  
(11月11日、記)





なる。トップ屋として梶山軍団と呼ばれるグループを率い、政財界のルポ記事に大活躍する。

### ⑥文壇一の売れっ子に

「モーレツ作家」 酒席抜け出し執筆も

自動車業界の裏幕を描き産業スパイ小説の言葉を生んだ「黒の試走車」で一躍流行作家へ。同時並行で各分野に超人的に書きまくる。収入も文壇トップとなつて、夜の銀座、赤坂もわがものとする。

### ⑦無冠の異才 夢残し去る

「ライフワーク」 宿願 仲間が引き継ぐ

あれだけ欲しがった芥川賞、直木賞、何れも既にプロ作家として大成しているのだからとの意見もあつてか遂に無冠のまま。移民、原爆をテーマにしたライフワーク「積乱雲」の取材で香港に飛び、食道静脈瘤破裂によつて急逝する。宿願は美那江夫人ら仲間が引き継いでいる。

梶山が出版社から受けた報酬の伝票などを初めから全大書にとつておき、未完成も含む全作品の記録は勿論、関係者の談話など一切を集大成した一巻を苦勞して作り上げたのが美那江夫人。「戦友と呼んでくれた夫への『紙のいしぶみ』です。」【積乱雲】(季節社刊A5大判、千六百頁)戦艦大和みたいな超弩級のこの本が紀伊國屋から発売されたのは平成十年二月のことでした。

翌年九月、これを元にテレビ朝日が歴史シリーズと放映したのが題して『男の宿題・女の宿題』小説家梶山季之の「積乱雲」司会は三宅裕司。藤本義一の「梶山を悪く言う奴にお目にかかりたい。云々」に始まり、夫に残された宿題を仕上げた形の主役美那江夫人を中心に村上兵衛、森村誠一、佐々木久子といったお歴々が故人の太くて短い生涯を浮き彫りにしたのでした。

実はかく申す筆者、美那江夫人が主催する各種のパーティの席でのご縁で「憧れのハワイ航路」の日本作詞家協会名誉会長の石本美由起氏や、「酒」の佐々木久子氏といった名士にもお近づきになりました。石本氏はカーブがその昔初優勝した瞬間を後楽園球場で膝に梶山の遺影をおいて見届けた御仁。佐々木さん共ども「広島カーブを優勝させる会」の重鎮だったので。こういった交流ができるのもあの男のお陰だと感じています。

早稲田のゼミだったか「梶山は文学史に残る作家だろうか?という論議があつて、結局笑い話に終わったという話を聞いたことがあります。」「ボルノ物も書いていたからだろうか?」と矢張り引き揚げ同士で二中以後も終生親友だった吉田照生大妻女子大学教授(故)に聞く。「もう「黒の試走車」で文学史に載っている。社会派推理小説の書き手としては松本清張や水上勉と一緒だよ」と弁護してくれたものです。



「藝陽」1948 復興特輯号より  
「應援歌」  
梶山秀之作詞と間違えている

梶山を兄事する作家・陳舜臣氏曰く「梶山兄は面白い小説を書きました。よく千篇一律といつて同じタイプの小説を書く人がいますが、彼は工夫を凝らしてどこか新しいものを読者に提供したので。」「千律千篇」という言葉を贈ります。」(十三回忌献詩に寄せて)

全く純文学から社会、政治、経済、時代ものからポルノまで、一人の人間の頭脳によくも同時にこれだけ幅広く浮かぶものか、これは異才を通り越して超人じゃないか、とさえ凡人の私には思えるのです。

梶山文学を研究し続ける数多の中の一人、大竹在住の渡辺晋先生は医院長の傍ら「天瀬裕康」のペンネームを持つ作家でもあります。〈梶山季之と昭和戦後の大衆文化〉研究会を立ち上げそのHPも持つ程のこの先生がまとめた一冊「梶山季之総仕事」(非売品)には、怪物の全作品が「第1章・少年もの」「第2章・ノンフィクション」といった風に、小説、エッセイから講演までジャンル別に第9章まで区分けされ、すべての作品にナンバーを付けて整理されている。その数ザッと二千七百点! 梶山も梶山なら、これを整理した仕事もマニアックを通り越して驚異じゃないですか。

締めくくりに再び二中時代に戻りましょう。転校生はよく受ける試験なのでしようか、席を並べた友の一人の話。「梶山ら引き揚げ者は標準語しか話せない。言葉の違和感もあつて、いじめはあつた。背が高く小生意気な梶山はその対象だった。人目のつかない処へ連れて行かれ、殴られたこともあつたが、黙ってやられる奴ではなかった。戻ってきて「跳びげりしてやった」と強がっていた」そう。な。「松本オー」と呼び掛けてきたヌーボーとした風貌は忘れられません。

一九四八年は昭和二十三年、これは筆者も梶山も広島二中を卒業した年。その二月に二中の藝陽文芸班が作った「藝陽」復興特輯号というA5判62頁の文集があります。紙も悪いし茶ばんで古色蒼然。この中に、五年生梶山季之の作品が3点収録されています。短編小説「或る友」、詩「停電」。そしてユニークなのは校内文芸活動の一環としての募集に入選した『應援歌』。升田徳一先生が曲をつけたが、残念ながらこの歌は同窓の記憶に残るものまでにはならなかった。二中が間もなく消え、引き継いだ芸陽高校が僅か一年の命だったので仕方ないでしょう。

「小説電通」「小説東急」などを著したルポ作家の気鋭大下英治氏が広大の先輩でもある梶山の伝記に取り組んでいると聞きます。楽しみです。世に出たら観音卒の皆さんにも是非読んで欲しいものです。

了



二中卒業アルバムより プールサイドにて  
後列 右から二人目・梶山、その左・吉田  
前列 右から二人目・松本



## 県人会で交流をしたが：

毎年一月末に催される東京広島県人会総会の一卓に二中観音の同窓がミニ芸陽会の如く集い、同郷の名士を囲んで写真に収まることを続けてきたが、近年余りの雑踏にそれも難しくなってきた。これは本誌で報じたことであるが、平成十七年一月二十六日のこの席に例によって常連的な有志が顔を揃えたところへヒョクなことから名刺を交換したお二人さんが、何と広島から上京出席して来た観音同窓ではないですか。「四人そこへ並んで」と松本が撮った一枚をご披露。



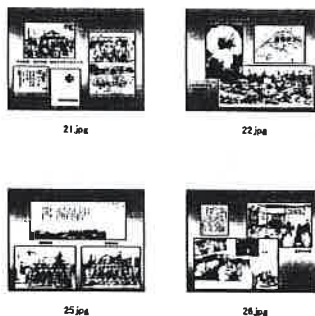
左から  
 大成正樹（観13＝東京世田谷）、  
 猫島栄治（観18＝広島市安佐南区）、  
 三宅紳童（中18＝東京練馬区）  
 そして右端は  
 川中敬三（観21＝広島市安佐南区）  
 の四氏。  
 在京のお二人は在京会の重要メンバー。

広島在住のご両人は《ねこしまの広島菜漬》、《川中の天然かけ醤油》の販促営業活動に上京、県人会に出席したとお見受けした。ならば、こちらも同窓会の発展に一助願おうじゃないかと、本誌前号を猫島、川中のご両家に郵送し、こんなことやってるから在京の同期の友に声をかけて頂きたい、と添え書きしたものである。しかしそれから一年近く、全く反応はない。

## 市立二中じゃないですゾ

芸陽観音同窓会のHPを覗き、めばしい場面をプリントしてみたら、とんでもないことに気がついた。多数の二中、観音の歴史画像のタイトルが「広島市立第二中学校の歴史画像一覧」となっているのです。県立には行った覚えがあるが、市立には行った覚えはない。同窓会本部専従の金藤さんへ十一月十二日の総会当日、激励のメールに添えて、「忙しいでしょうがこれは訂正してもらわないと」と添え書きしたので、全く余計なことをする奴ですナ。

広島市立第二中学校の歴史画像一覧



二日後、芸陽観音同窓会ホームページ管理人・河野真治郎という人から返信FAXが来ました。

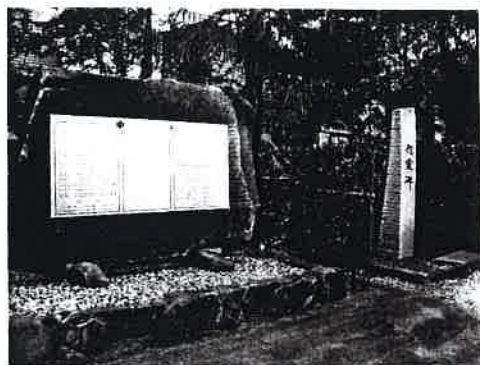
「ご指摘の（県立/市立）表示間違いの件、これは観音18回卒業の方が作成されているもので、同窓会のオフィシャルなホームページではありません。ここ数年は更新もされていないこのページの運営管理者の方のお名前や連絡先が見当たりません。同窓会の方からも調べてみて連絡がつくようでしたらご指摘の内容をお伝えします。（後略）」

同窓の皆様、クレームをつけた当方が重箱の隅をついたのでしょうか？

## 二中排球部石碑が観音校地内に

今でこそ、観音のサッカーが全国大会に出場するほど腕をあげているが、前身の二中の伝統スポーツは水泳と並んでバレー（排球）だった。何せ全国制覇を十回も遂げたという矚目の歴史があるんだから。

本誌この号で「また二中の伝統が観音校地内に」と題して二中排球部栄光の歴史を刻む石碑が建立される、という記事を作り、同部で活躍した谷口清氏（8期）と皇太子（今の天皇）との交流エピソードにもふれていたのだが、発行を延期するうちに本部の「藝陽」に掲載されてしまった。つまりもはや《旧聞》となったからポツにしてみました。しかしその何れでも完成予想図のスケッチしか使われていない。「現物の写真があれば話は別だけど」と上記同窓会事務局の金藤さんに持ちかけると、早速メールで写真を送って来た。間に合った。建立の趣旨は「藝陽」をお読み下され。



同窓会館の前、慰霊碑（右）の隣に建てられた。碑面プレートには、部のあゆみ、出場成績、OBの活躍ぶり、日本代表の団長、監督の名前など詳細に刻まれている。

「この頁すべて本誌マツモト」

# 虫 [ 二 中 頁 ]

本誌には各位から色々な資料、文献等が送られてきます。必ずしも全て誌面に登場するとは限りません。ここにありますのは「覚えていますか？恩師の名まえ」と題する在学当時の教職員名簿。送って来た人は二中22期の國光 健氏（元広島総合銀行副頭取、㈱大創産業監査役・広島市南観音町在住）。同窓会発行名簿の職員録と重複する面もあり、関心を持たれるのは率直に云ってこの頃に在学した人たちに限定されるのでは…と棚上げしていたのです。そこへ1期上、21期の森 龍司氏（広島市観音本町在住）から「先生のアダ名は全部覚えとるヨ」と、その一覧を送って来たのです。はからずも21、22期と揃って恩師方への思いが一致したのかいな？ となれば、『合わせ技でイッポン!』

## 覚えていますか？ 恩師の名まえ

[國光 健(22期)提供]

広島県立広島第二中学校教職員名簿(昭和17年10月現在 創立20周年)

受持・学科	氏名	就任年月	受持・学科	氏名	就任年月
学校長・身	古田 貞衛	昭 6・11	国 漢	広畑 吉次	昭 2・4
教頭・英・公民	粕谷 伊八	12・3	(庶務)	福本 繁登	15・4
圖	市川 邦彦	大 11・3	教 練	藤中 三郎	13・9
生 物	今堀 宏三	昭 17・4	國 漢	升田 龍一	15・5
物 象	石田 三郎	17・4	数 学	松永 高三	12・6
英 語	稲葉 正揚	13・5	教 練	松本 楽市	16・11
体 操	岩下 博久	17・10	数 学	宮迫 卓實	17・3
作業・公民	植松 勝良	2・4	剣 道	宮岡 棟吉	15.11
数 学	岡田 常太郎	大 14・4	國 漢	峰 太郎	17・05
英 語	落合 生	15・3	数 学	箕村 登	14・3
教 練	河内山 数人	昭 9・11	英 語	山本 敏郎	2・4
英 語	加賀谷礼三郎	4・3	山 本	山本 信雄	2・2
國 漢	唐崎 忠夫	4・4	数 学	山岡 知邦	15・3
数 学	柏原 米吉	16・4	(会 計)	山本 幸栄	15・4
(会 計)	熊崎 春次	16・10	配属将校	横尾 達三	17・6
柔 道	佐田 秀人	大 13・3	数 学	斉藤 廉治	17・1
体 操	重永 猛志	昭 11・7	國 漢	安藤 甚郎	17・3
物 象	末富 幸博	14・4	物 象	陶原 四郎	17・4
國 漢	関本 雪象	14・4			
地 歴	外林 秀夫	11・3	(校 医)	高原 剣二郎	17・6
物 象	辰本 英二	大 16・3	(歯科医)	月藤 宇佐吉	15.4
國 漢	寺田 徹	13・4	(衛生員)	穂田 興平	13.8
地 歴	堂崎 豊	昭 7・3			
英 語	中島 周介	大 14・4	軍務公用中	今城 光博	15・9
英 語	中谷 春司	13・3	〃	畑中 看祐	13・2
英 語	仲山 岩男	昭 5・9	〃	大畑 政一	15・3
地 歴	西村 正男	15.4	〃	柳井 徳三	15・5
生 物	能勢 静人	16・1			
地 理	長谷川治茂	16・5			

### お世話になった先生

[森 龍司(21期)提供]

古田 貞衛 (ゼントルマン)  
 安藤 甚郎 (あんどん)  
 加賀谷礼三郎 (ギットン)  
 宮迫 卓実 (シャコ)  
 市川 邦彦 (うま)  
 長谷川治茂 (メンパチ)  
 今城 光博 (ヤマアラシ)  
 外林 秀夫 (がいりん)  
 中谷 春司 (てぼ)  
 堂崎 豊 (がんめん)  
 大熊 武吉 (おおくま)  
 山本 敏郎 (くまさん)  
 山本 信雄 (のぶさん)  
 峰 太郎 (みねさん)  
 関本 雪象 (せっしゅう)  
 末富 幸博 (だいこん)  
 岡田常太郎 (おさんぎつね)



植松 勝介 (すけ)  
 柏原 米吉 (すなぶく)  
 河内山数人 (そうしゅん)  
 松本 楽一 (だんご)  
 藤中 三郎 (まんそう)  
 横尾 達三 (配属将校)  
 岩下 博久 (ポパイ)  
 寺田 勇 (てらまん)  
 佐田 秀人 (さだめん)  
 中島 周介 (しゅうすけ)  
 稲葉 正揚 (いなちん)  
 山岡 知邦 (やまかん)  
 箕村 登 (みのむし)  
 村上 久雄 (おこぜ)  
 中川 琢司 (あんばん)  
 大杉 要 (まめたん)

ニックネームというものは先輩から後輩に踏襲されるのが通例でしょうが、そうとも限らないのもあるようで「ヘー」もありましょうか。

この二つの名簿、どちらにも思い違いか(あっても当然)、100%正確か?には首を傾げることも無きにしもあらず。完全に間違いが確認されるものは訂正もしましたが、マ、間違いを見つけて話題にされるのも一興じゃないですか。(マツ)



## 二中アーカイヴズ 中「勤労働員令」

ここに広島二中のアーカイヴズ古文書とでも言えるものをご紹介します。

太平洋戦争の末期には日本国中の中学生女学生は本来の使命である学業にいそむ自由を強制的に奪われたのです。「戦時非常措置令」という法律のもと「学徒勤労働員令」が発せられ、銃後の戦士として主として軍需工場あるいは関連施設、さらに農作業、強制家屋疎開作業などに駆りだされたのでした。二中の場合、19期あたりから始まり、20期、21期、22期、23期、そして1学年が全滅した24期までがこの苦しみを味わった世代と言えましょうか。昭和19年、軍の命令を受けた各学校が生徒及びその家庭にこの勤労働員令を伝達したわけですが、郵便事情が悪かった当時では行き届かず、生徒に直接手渡した例がかなり有った。貴重な歴史を物語るこの原文に陽の目を当たらせましょう。

21期の森龍司氏（広島市観音町在）から同期の藤川浩司氏（四街道市在）へ宛てた手紙をご披露します。

『61年前、昭和19年6月9日発令された学徒勤労働員令が見つかりました。これを見つけ出してくれた友・榎野譲が本年死去しました。多くの方々に見て欲しいと云っていましたので、ご配慮頂きとうございます。今では非常に珍しい候(むづ)文で書かれていて読み難いので、古典の先生をやっていた友人にフリカナをつけてもらいました。私達は西区観音新町4丁目三菱重工業・広島機械製作所に行っていました。ここにいたので原爆で亡くなったのは2名（寺岡、山本哲）だけです。原文を同封します。』

森氏は元観音高校PTA会長、母校五十年史編纂にも尽力した。

榎野氏も21期、教職の第1歩は二中の跡地・観音小学校だった。

古典の先生とは同期の織田慶禧氏（観音高元教頭、昭和9・3灘）

観音卒の皆さん、こんな時代もあったことを理解して欲しいものです。

●巻頭でもふれましたが、今号は十月末の総会で発行を前提にして編集作業を進めていたのを総会後に延期しました。これにはプラス、マイナス両面があります。

プラスは何ととっても総会の報告が最新情報として掲載出来ること、マイナスは作成済み原稿が古くなったり、生業が比較的融通のきく夏秋より繁忙な年末に編集作業をせざるを得ないことによって手に余り、当初の企画、依頼しようとしていた寄稿を断念することも出たりです。従って当初の思惑より若干異なったものに仕上がりました。観音13期の杉野信子さんから自らの体験が載った世田谷の被爆証言文集を寄せられたのに、提供情報はセイいっばい尊重する本誌ながら、ほぼ締切った後で積み切れなかった。些か悔い。

●この在京会が会則によって芸陽観音同窓会の東京支部となったとあらば、会報に本部同窓会長からの一言メッセージがあつてしかるべきでしょう。ご存じと思いますが、本部同窓会長は故寺本和彦氏から中本弘氏に代わりました。どちらも二中22期、筆者達が作つてゐる「二二会」の仲間です。二中卒業時に交換したサイン帳には彼の教養豊かな名文が残っている（『永遠の友になろう』なんてお互い青臭かったノウウ；）。

二二会東京支部の代表としての拙宅にサッカー募金要請の電話をしてきた彼ですから、在京会の新しい門出にメッセージを頼めば否とは言わないでしょう。でも私に些かひっかかりが無くもないのです。

二重橋を渡って皇居で馳走になったほどのキャリア、高い社会的地位を持つ彼の本部同窓会長就任に異論のつけようもない。しかし何も2代続けて二二会（22期）ばかりがいつまでもチョウリョウバッコすることはないじゃないですか。先代の病気による代行は止むを得なかつたとして、また、会長には政治家はならないと

いう不文律も過去のものとしても：です。彼の弁舌に立ち向かえる人がいないという現実によるものかと解釈しています。マ、できるだけ早く「観音へつなぐ」と言つてゐるそうですから、期待しましょう。そんなこんなで彼に寄稿を依頼することは考えませんでした。でも将来までもの否定はしません。

●前2号の後記で「本誌（3号雑誌）の寿命？」と書きましたが、違った意味でもこの形はこの3号で終わりになるかと考えています。この週刊誌的な形では送料がかかり過ぎるといふ欠点が大きいです。本部発行「藝陽」の如く同じA4判でも折り込みだけにすれば違つて来ましょう。編集ではそれぞれ一長一短があります。シリーズ的な企画を考えると、多数の同窓の中の例えば「黄綬褒章」に輝いた人、日銀政策委員としてわが国経済を動かしている人なんかを、今号の「樞山季之」のように（こんな人物が同窓にもいる）と取り上げるには雑誌形の方が向いているかと思つています。

●前号までは熱心な期に希望の数だけを配っていたのが、観音主導となった今号から「千部欲しい」との要望があり、ならば印刷屋に発注せざるを得ないと見積りをとつてみると、とても今の会の財政では叶わない線が出た。止むなく従前どおり手作りで二百五十部までなら、と引き受けたのであります。パソコンやワープロで版下を作り、自前のコピーでホッチキス留め、周囲を一部づつカッターで手切りする：「手作りの温かきがある」と言えば聞こえはいいが、まことに時代遅れの作り方なんです。追加が比較的容易に出来るという点を取り柄と言えましょうか。いずれにせよこのやりかたは今号まで、次号からは観音主導で当方は協力するという方向ですから、諸兄諸姉、よい知恵をかしてください。（マツモト・デザイン 松本 正）



# たまます 玉萬寿醬油



風土が育んだ  
ほんものの  
おいしさを  
伝えます

- 全国醤油品評会 ■
- ◆ 昭和 56 年 食糧庁長官賞
  - ◆ " 61 年 "
  - ◆ " 63 年 農林大臣賞
  - ◆ 平成 10 年 "
  - ◆ " 12 年 食糧庁長官賞

天保年間創業  
濱口醤油醸造場

濱口醤油醸造場 〒737-2211 広島県江田島市大柿町柿浦2080 TEL0823-57-2136 FAX0823-57-7122  
 商工会ホームページアドレス <http://www.ogaki.or.jp/shopm/hamaguti/>  
 [能美島に実家がある観音20回期・猪原陽子さん(旧姓濱口)提供]

[在京芸陽] 3号 平成17年(2005)12月発行 第1刷

企画制作 松本 正 <マツモト・デザイン> (二中22回卒)

〒216-0001 川崎市宮前区野川30-8 携 090-9387-7770  
 TEL 044-751-2156  
 FAX 044-751-5205

Mail Address [matsumotodesign@jazz.odn.ne.jp](mailto:matsumotodesign@jazz.odn.ne.jp)

## 海の男 竹林大先輩急逝

大成司会の会記に言うところの「在京同窓会の自慢であり誇りである二中第一回卒業の竹林信夫大先輩に乾杯の発声をお願いした。」声も大きく顔色もよく益々お元気なその雄姿が未だ臉に残っているというのに、その竹林大先輩が総会からものの一カ月も経たない十一月二十五日に彼岸へ旅立たれてしまった。急性心不全。享年九十五歳。

三年前の挨拶では「九年前に妻に先立たれて以来、掃除、洗濯、買物も一人でごなしています。」拍手を呼んでいた。今年の席では乾杯の音頭の前書きで「明治四十三年二月十日、つまり四、三、二、一、〇が並んで天神町に生まれました。中島小学校から二中です。もう最後だろうと今年の五月に娘三人をエスコートに広島原爆資料館、二中慰霊碑に参ってきました。第一期生二百人のうち生きているのは私を含めて二、三人。きょうはこんなに沢山の若い人の前で話が出来て光栄です。」

（本誌2頁グラフ参照）

氏は昭和二年に二中を卒業したが、家庭の事情で進学できず、郵便局に勤めていたのを偶然路上でバツタリ逢った恩師に勧められて二中の物理化学教室の助手をしながら勉強し、東京の高等商船学校（のちの商船大学）に進み、外国航路の船長として世界七つの海で活躍。その後水先案内人パイロットに転身した。長年の功績を讃えられて勲四等瑞宝章に輝いたが本人が長

年の海員生活の中で最大の誇りとしていたのは世界最初の全自動化船「金華山丸」の初代船長になってアメリカ海軍長官を口惜しがらせたことだった。

同じ商船学校を出て船長、さらにパイロットに転身しそして叙勲を受けるという同じ人生コースを辿った人が二中同窓に三人もいるという話は本誌1号で紹介した。最初はもちろんこの竹林氏、二人目は三、四年後の佐藤毅雄氏、そして三人目は22期の石川利之氏（横浜在住）。簡単に水先案内人といってもこの職業は智力、体力ともに抜群の物凄い競争を勝ち抜いた者に初めて与えられる資格、名譽、高収入である。

「竹林さんは操船の名人だっただけでなく、碁、将棋、麻雀、ゴルフその他のスポーツも一流だった。商船三井などの海運仲間OBでも際立った名士として知られていた」（後輩石川）。

遺族の意向でこの悲報は同窓会や同業関係にも直には伝わらなかつた。石川氏でさえ娘さんからの喪中ハガキで知って愕然としたくらいだから。

旬日を経て、芸陽会を代表する形で杉並のお宅を叩門した奥窪副会長の話では、前の日まで元氣そのもの、近所に住んで世話を焼く娘さんが引き揚げた後、一人風呂に入って倒れたとのこと。最後まで人生現役、見事な御生涯だったと言えようか。

広島本部が求める同窓会基金への拠出は多くて一口一万か五千円のところ、一桁違う拾万円をポンと出した人が一人いた。それが竹林さんである。

長年海で鍛えられた…さもあろう…実年齢が信じられない大音声も二度と聞くことは出来ない。

二中の大きな星がまた一つ消えてしまった。深悼。  
平成十七年十二月十五日  
（マツモト）